

| | | | | | | | | |
|--------|--------|-------|--------|----|---------|------------|----|-------|
| 主要事業概要 | | 対象年度 | 令和 4年度 | | 担当部署 | 上下水道部上下水道課 | | |
| | | 事務事業名 | 水道事業 | | | 事業期間 | 継続 | |
| 事業性質 | ■ 主要事業 | | □ 総合戦略 | | □ 行財政改革 | | | |
| 予算科目 | 会計 | 水道事業 | 款 | 01 | 資本的支出 | 項 | 01 | 建設改良費 |
| | | | | | | 目 | | |

| | | |
|----------------|--------|---------|
| 事業費内訳 (単位: 千円) | R 3決算額 | R 4決算額 |
| 建設改良に要する経費 | | 352,444 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| 事業費計 | | 352,444 |

◆主たる事業概要

【令和 4年度事業概要と効果】

概要：安全で強靱な水道が50年、100年先まで持続するよう市民の皆さまと連携し、統廃合を含む老朽施設の更新等の課題を長期的かつ総合的な観点から効率的・効果的に事業を実施いたします。

効果：霞ヶ浦浄水場について

令和4年度より更新工事を行い、その完了見込みを令和9年度としております。

主要設備を更新し、安全で強靱な水道事業を継続いたします。

また、将来の水需要予測より霞ヶ浦浄水場をダウンサイジングするとともに、効率化を図り持続可能な水

道

事業を運営してまいります。



更新中の受変電設備



仮設受変電設備

【地方創生総合戦略の取組内容】

【行財政改革の取組内容】

■指標

| 種類 | 指標内容 | 単位 | | R 3年度 | R 4年度 | R 5年度 |
|--------------------|--------------------------------|----|----|-------|-------|-------|
| 事務事業 成果指標 | 霞ヶ浦浄水場更新工事進捗率 ※令和4年度から6ヵ年事業 | % | 目標 | - | 16.6 | 33.3 |
| | | | 実績 | - | 16.6 | - |
| 総合戦略 成果指標 (KPI) | | | 目標 | | | |
| | | | 実績 | | | |
| 行財政改革 成果指標 | | | 目標 | | | |
| | | | 実績 | | | |

◆評価 (C)

| | | | | | | |
|--------|--------------------|---|---|--|--------|-------|
| 事務事業 | 妥当性評価 | 必要性 | 高 | 水道施設を適正かつ合理的に維持管理し、計画的に整備することにより、清浄で低廉な水の供給を図り、公衆衛生の向上と生活環境の改善に付与している。 | | |
| | 有効性評価 | 事業成果 | 高 | 水道施設更新計画に基づき各施設の更新に取り組んでおり有効性は高い。 | | |
| | 効率性評価 | 経費削減 | 無 | 予算・人員ともに現時点で削減の余地はない。 | | |
| | 課題 | 本格的な人口減少社会を迎え、給水収益の減少が見込まれる中、水道施設の老朽化が進行し、施設更新需要の大幅な増加に加え、災害発生時に断水が長期化するリスクを抱え、また人材の不足や高齢化が進むなど、様々な課題に直面している。 | | | | |
| | 部署内評価 | 計画的な施設の更新工事や統廃合などにより事業経営の改善が図られることとなります。また、安定した水道水の供給を目指していかなければなりません。 | | | 評価結果 | 昨年度結果 |
| 総合戦略 | KPI進捗 (5年ごとの評価) | 実行程進捗 (全体評価) | | | 目標到達度 | |
| | 成果と評価 | | | | 評価結果 | 昨年度結果 |
| 行財政改革 | 進捗概要 (取組内容) | 実行程進捗 (単年度評価) | | | 目標到達度 | |
| | 成果と評価 (令和4年度) | | | | 評価結果 | 昨年度結果 |
| 総合評価結果 | 内部評価 | 水道事業老朽施設の更新を進めているが、今後も施設更新計画に基づき進めていく必要がある。効率的な施設運営を目指し今後とも収益事業の効率化を進めてい必要がある。 | | | 内部評価結果 | 昨年度結果 |
| | 外部評価 | | | | 外部評価結果 | 昨年度結果 |

◆今後の改善方策や方向性 (A)

| | | | | | | |
|-------|---------|---|----|----------------|--|--|
| 事務事業 | 事業判断 | 継続性 | 継続 | 広域化を見据えた取組みの推進 | | |
| | 改善方策 | 広域化を見据え、配水施設を最適化するなど、施設の統廃合を進める必要がある。 | | | | |
| | 方向性 | 茨城県が策定した「茨城県水道事業広域連携推進方針」を軸として、水道施設の最適化を図り、水道水の安定供給を強化する。 | | | | |
| 総合戦略 | 次年度取組計画 | | | | | |
| 行財政改革 | 次年度取組計画 | | | | | |
| 指摘事項 | 内部評価 | 県で進めている水道事業の広域化・共同化を進め、今後の水需要に合った水道水の安定供給を推進すること。 | | | | |
| | 外部評価 | | | | | |

| | | | | | | | |
|--------|--------|-------------------------------|--------------------------------|------|------------|----|--|
| 主要事業概要 | | 対象年度 | 令和 4年度 | 担当部署 | 上下水道部上下水道課 | | |
| | | 事務事業名 | 下水道事業 | | 事業期間 | 継続 | |
| 事業性質 | ■ 主要事業 | <input type="checkbox"/> 総合戦略 | <input type="checkbox"/> 行財政改革 | | | | |
| 予算科目 | 会計 | 款 | 01 資本的支出 | 項 | 01 建設改良費 | 目 | |

| | | |
|-------------------|--------|---------|
| 事業費内訳 (単位: 千円、税抜) | R 3決算額 | R 4決算額 |
| 建設改良に要する経費 | | 189,262 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| 事業費計 | | 189,262 |

◆主たる事業概要

【令和 4年度事業概要と効果】

(1) 公共下水道整備事業費 28,834千円

① 下水道ストックマネジメント修繕・改築計画策定業務委託 9,990千円

概要：持続可能な下水道事業の実施を図るため、膨大な施設の状況を客観的に把握、評価し長期的な施設の状況を予測しながら、下水道施設を計画的かつ効率的に管理する。

効果：下水道施設の状況を把握することによって、安全性の確保及び良好な状態の維持が可能となり、また優先順位を考慮した対策を行うことにより合理的な施設管理が可能となる。

② 農集土田地区公共下水道接続工事設計業務委託 3,980千円

概要：持続可能な下水道運営を図るため、茨城県汚水処理事業広域化・共同化計画に基づき、農業集落排水処理施設を廃止し、公共下水道へ接続する。

効果：処理施設を廃止することにより、維持管理費及び汚泥処理費等が削減され、持続可能な下水道運営が図れる。

(2) 雨水整備事業費 117,227千円

① 逆西調整池整備事業

概要：多発する集中豪雨や都市化の進展に伴う浸水被害について、被害が甚大な逆西地区の雨水浸水対策として調整池を整備する。

効果：調整池を整備することで大雨・豪雨の際に雨水を一時貯留し、下流への流量を抑制することで、浸水被害を軽減し安心安全な市民生活の確保を図る。

・令和4年度事業内容 用地購入、基本設計業務



逆西調整池整備予定地

【地方創生総合戦略の取組内容】

【行財政改革の取組内容】

■指標

| 種類 | 指標内容 | 単位 | | R 3年度 | R 4年度 | R 5年度 |
|--------------------|------------|----|----|-------|-------|-------|
| 事務事業 成果指標 | 調整池整備事業進捗率 | % | 目標 | 10 | 30 | 40 |
| | | | 実績 | 10 | 30 | - |
| 総合戦略 成果指標 (KPI) | | | 目標 | | | |
| | | | 実績 | | | |
| 行財政改革 成果指標 | | | 目標 | | | |
| | | | 実績 | | | |

◆評価 (C)

| | | | | | | | | | |
|--------|--------------------|--|---|---|-------|--------|---|-------|--|
| 事務事業 | 妥当性評価 | 必要性 | 高 | 公共用水域の水質保全や近年の大雨に対する浸水被害軽減のためにも、下水道整備及び雨水排水整備は必要である。 | | | | | |
| | 有効性評価 | 事業成果 | 高 | 下水道施設の老朽化が進んでいることから、施設の広域化・共同化、また長寿命化を計画的・効率的に進める必要がある。 | | | | | |
| | 効率性評価 | 経費削減 | 無 | 予算・人員ともに現時点で削減の余地はない。 | | | | | |
| | 課題 | 今後の人口減少に伴う使用料減少、及び施設の老朽化に伴う維持管理費の増大など経営環境の悪化が想定されることから、下水道整備区域の見直しや検証が必要である。また近年の大雨に対応する雨水排水施設の計画的な整備が必要である。 | | | | | | | |
| | 部署内評価 | 施設の老朽化に伴う維持管理費の削減及び費用の平準化、施設の広域化・共同化により、事業経営の改善が図られることとなります。また、市民生活に直結する浸水被害が軽減されますが、検証を行い、計画的に整備していくことも必要となります。 | | | | 評価結果 | B | 昨年度結果 | |
| 総合戦略 | KPI進捗 (5年ごとの評価) | 実行程進捗 (全体評価) | | | 目標到達度 | | | | |
| | 成果と評価 | | | | | 評価結果 | | 昨年度結果 | |
| 行財政改革 | 進捗概要 (取組内容) | 実行程進捗 (単年度評価) | | | 目標到達度 | | | | |
| | 成果と評価 (令和4年度) | | | | | 評価結果 | | 昨年度結果 | |
| 総合評価結果 | 内部評価 | 下水道事業を持続可能な事業とするため、下水道施設の状態を把握し安全性の確保及び良好な状態を維持している。また、農業集落排水処理施設を廃止することにより維持管理費等が削減され、持続可能な下水道運営が図れている。近年多発する集中豪雨や都市化の進展に伴う浸水被害に対し調整池を整備することは市民の安心安全な生活に資する | | | | 内部評価結果 | B | 昨年度結果 | |
| | 外部評価 | | | | | 外部評価結果 | | 昨年度結果 | |

◆今後の改善方策や方向性 (A)

| | | | | | | | |
|-------|---------|--|----|---------------------------------|--|--|--|
| 事務事業 | 事業判断 | 継続性 | 継続 | 下水道施設は整備から維持管理へ、雨水排水施設は整備を推進する。 | | | |
| | 改善方策 | 下水道施設においては、費用対効果等を十分検証し整備を進める必要がある。また雨水排水整備については、調整池の効果検証を行いながら対策を検討していく。 | | | | | |
| | 方向性 | 下水道施設においては、施設の老朽化に対応するため、ストックマネジメント計画等を活用した計画的・効率的な維持管理が必要であり、人口減少に伴う下水道経営悪化に備えて施設の広域化・共同化を推進する。また、雨水排水整備については、市民の安心・安全のためにも整備の推進が必要である。 | | | | | |
| 総合戦略 | 次年度取組計画 | | | | | | |
| 行財政改革 | 次年度取組計画 | | | | | | |
| 指摘事項 | 内部評価 | 下水道整備についてはストックマネジメント計画等に基づき効率的な維持管理をすすめるとともに、人口減少社会に備え施設の広域化等を推進し効率的な運用に心がけること。雨水排水整備については、市民の安心・安全のためにも整備の推進すること。 | | | | | |
| | 外部評価 | | | | | | |